

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日:2023年12月22日

事業所名:

サービス種類:(例:児童発達支援・放課後等デイサービス)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	全体を見渡せるように配置し、安心して過ごせるように配慮している。	はい:16名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 わからない:2名	整理整頓を日頃から心がけ、安全安楽の場所の提供を行う。
	2 職員の適切な配置	休憩時間にも行き届くように看護職員を多めに配置している。	はい:17名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:2名	一部職種の増員を計画。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	ほぼ四角形の機能訓練室で、全体を見渡せる。バリアフリー化している。物品整理や配置替えで、死角を無くしている。	はい:16名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:3名	特に送迎時や休憩時のスタッフが少なる時間帯は特に、オムツ替えのパテーションによる死角など、手薄になる瞬間を自覚し、声掛け等を徹底する。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	掃除、消毒、常時換気を行い、清潔な空間としている。外構清掃や車内清掃、消毒をしている。玄関近くにカーテンを設置し、外気温による室内の気温変化を軽減した。	はい:17名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:2名	感染症予防の観点からも一層の強化を行う。研修等で新しい情報の内容を更新し、職員間の共通認識を深める。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	ヒヤリハットを率先して記載し、会議や日々の打合せで情報共有や改善事項のチェック、前会議の議事録で進捗確認を行っている。		ケア、記録、管理などの項目ごとにチェックを行い、パート職員には共有する時間を別途確保する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		検討中。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	定期研修を毎月行う他、本や新しい情報を共有している。医療的ケア児等コーディネーター養成研修等、外部研修を受けている。		外部研修の機会を探し、勉強の機会を増やす。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	モニタリングや日々の情報を基に、相談支援事業所と連携し、ニーズの汲み取りと他事業所との統一性を心がけている。	はい:19名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	モニタリング及び支援計画の内容の情報共有をしっかりと行い、全スタッフに周知する。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々の目標に沿った個別支援と集団支援の計画を立てた上で、支援を行っている。		お子様とのコミュニケーションを深め、個々の特性を知るとともに、いろいろな体験シーンを増やし、可能性を伸ばす支援計画を作成する。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	相談支援計画やモニタリングを反映する個別支援作成会議を行い、検討を行っている。		支援会議の参加や相談支援の方との情報共有を行い、支援計画に反映する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	モニタリング時、支援計画作成会議、出来上がった支援計画の情報共有を行い、スタッフで話し合いや情報共有の場を作っている。	はい:19名 どちらともいえない:名 いいえ:名 わからない:名	支援会議等を通して、情報収集を行い、他事業所とも連携を行う。ご家族様にも変更点を分かりやすく伝える。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	レク計画を立案し、打合せを行い、偏りのないように、また個性を重視した活動プログラムを取り入れている。	はい:17名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:2名	打合せ前にテーマをスタッフに告知し、打合せ前の準備をする。 またプログラムの振り返りを行い、より良いものへ改善を行う。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日の限られた時間では個別支援を中心に行い、休日、長期休暇では集団支援や制作などを主に取り入れている。		限られた時間内での時間配分に配慮する。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	月ごと、週ごとに分けて、立案、実施を行い、季節を感じるプログラムや、静(リラックス)と動(身体を動かす)などメリハリをつけて実施している。		月ごと、週ごとのテーマを決めて、スタッフ全員会議で多様な意見を取り入れて決定する。体調を優先しながら、自由な空間を意識する。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎朝の朝礼で各スタッフの役割の確認を行っている。		スタッフ間の声掛けをして、臨機応変に取り組む。職員間で差異なく統一したケアを実践する。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	終了後または翌朝に打合せを行い、ヒヤリハットも含め、その日の気づきなどを共有している。		問題点だけでなく、うまく行った事例も含め情報共有する。情報共有に関して今後も継続していく。特にいつもと違うことが起こった場合は情報共有する。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	連絡帳や業務日誌、個人シート、送迎記録票の見直しを日々行っている。		保護者様への連絡帳の記載方法について、ご本人様のご様子が分かるように工夫する。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	支援会議に参加し、またモニタリングを通して、見直し行っている。また日頃の申し送り時等で情報収集し、支援会議やモニタリング前にスタッフ間で意見交換を行っている。		モニタリング時期だけでなく、日頃気づいた点や入院歴について、メモを残し、情報共有する。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者、看護師、責任者が参加している。時間帯により、参加できないケースがある。		時間帯により、参加できない場合には、ランプの情報を先にお渡しし、会議の内容を後日頂戴する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	各ご利用者の主治医や学校、児童発達支援センター、相談支援事業所、訪看と、支援会議や送迎時、必要に応じ都度、連携を図っている。		学校見学の機会等を作り、しっかりとした連携強化に努める。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	看護指示書や入院時にはサマリー等で情報共有を行い、必要に応じて問合せをしている。各ご利用者の主治医や協力医療機関、嘱託医との連絡体制表を作成している。		看護指示書の内容の更新チェックも行い、必要に応じて、保護者様、医師との連携に努める。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	相談支援の方からの情報や支援会議等に参加して、情報共有していく。		支援会議や電話連絡等で情報共有していく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	相談支援員による担当者会議で、学校と共に、卒業後に通う障害福祉サービス事業所への情報提供を行った。		環境が変わる大切な時期するため、個別に事業所内での打合せを持ち、保護者様、相談支援員と相談しながら、細やかな情報提供を行う。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	医療的ケア児等支援者養成研修、医療的ケア児等コーディネーター養成研修、行動援護従事者研修、介護レク等の受講している。PT・OT・STによる支援センターでの施術見学で情報収集を行っている。		支援センターの訪問等により、連携を強化する。PT・OT・STによる支援センターへの見学を継続する。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	地域のお祭りやハロウィンイベントに参加した。	はい:3名 どちらともいえない:2名 いいえ:2名 わからない:12名  おたよりで地域の行事に参加したことが報告されていました。	近隣の児童館やこども会との交流の機会を設ける。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	まるっと説明会(芦屋市主催)で動画を通して、情報発信を行った。		地域住民との交流を深め、障害児に関するご理解を深めていただく。
1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時及び報酬改定時に、重要事項説明書により説明、また支援計画作成、更新時に説明している。	はい:19名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名	ご質問を承るなど、よりご理解いただくように努める。より分かりやすい説明に努める。 送迎時の申し送り時に、しっかりと関係構築を行う。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	支援計画作成後にご説明の上、ご署名、ご捺印いただいている。特に変更になった箇所を重点的にご説明している。必要に応じ、確認書を作成し、書面をもって説明の上、ご了解いただいている。	はい:18名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:1名	より分かりやすい説明に努める。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	家族会を兼ね、“重心歴35年の看護師と話そう”と題し、軽食を取りながら、行った。	はい:17名 どちらともいえない:2名 いいえ:0名 わからない:0名	保護者様のニーズに合ったテーマを今後も模索したい。参加できなかった方への情報提供について検討する。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時、モニタリング時、必要時は随時に、情報共有を行っている。特に疑問点については、早急に確認するよう心がけている。	はい:18名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:1名	ご様子の変化や疑問点が出た場合などより積極的に都度保護者様へお伝えし、保護者様からも話しやすい環境作りを行う。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	事業所内で検討の上、必要な場合、保護者様に連絡し、相談支援員や他事業所と連携を取りつつ、改善策を模索し、提案している。	はい:17名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 わからない:1名 モニタリングでお伝えすることができました。面談時に気づかされるが多々あり、良い機会を頂き、感謝しております。	積極的に関わり、保護者様のご意見を尊重した上で、提案していく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	ペアレントトレーニングを兼ね、“重心歴35年の看護師と話そう”と題し、軽食を取りながら、保護者様間の交流の場を提供した。兵庫県医療的ケア家族会に参加し、企画のお手伝いを行っている。	はい:13名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 わからない:5名 先日のペアトレ会で他の保護者の方とのお話しする機会がありました。	おたよりにInstagramのQRコードの貼付等、周知をしていく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	相談、苦情等を円滑かつ迅速に解決するための対応体制・手順を設置し、研修を行っている。苦情があった場合は、早急にスタッフ間での意見を交換し、改善に努めている。	はい:16名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 わからない:3名 今まで苦情を言う必要がないです。	苦情があった場合に対応後に振り返りを行い、改善点、課題点を抽出し、今後に繋げる。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	お子様特有のサインをスタッフ間や、ご家族、他事業所と情報共有し、コミュニケーションを取っている。	はい:18名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 わからない:0名	ご家庭でのご様子を申し送り時、モニタリングの際に聞き取る。学校との情報共有により、統一したアプローチを試みる。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月のおたよりやホームページ、Instagramのお知らせで日々の様子、連絡事項などをお伝えしている。	はい:19名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:0名 おたよりやInstagramで発信していただいています。	お子様のご様子を分かりやすく、写真等を活用しつつ、お伝えする。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	プライバシー保護マニュアルを作成し、研修を行っている。個人情報は鍵付き書庫で保管している。	はい:16名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:3名	ホームページやおたよりを通して、訓練の様子等を掲載する。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを策定し、保護者様へは契約時に説明している。職員へはそのマニュアルを持って研修を行っている。必要に応じマニュアルの更新を行っている。	はい:17名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:2名	ホームページやおたよりを通して、訓練の様子等を掲載する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練を実施のほか、災害計画の見直し、BCP作成及び災害時に備えた物品の整備を行っている。	はい:16名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 わからない:3名	ホームページやおたよりを通して、訓練の様子等を掲載する。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止と身体拘束適正化の研修を行っている。 以前は可としていたことが虐待と考えられるようになった事例等も再確認している。		外部研修を受けたスタッフは、その内容を事業所内で発表する。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	事例はないが、あった場合は保護者、主治医、相談支援の方と協議し、計画に反映の上、慎重に進める。指針及びマニュアル有り。		相談支援事業所への相談を含め、保護者様との共通認識に努める。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	事前に書面に記載をいただき、留意事項として情報共有している。必要に応じ、医師の指示書を依頼する。 *食物に関しては当事業所では提供していない。		食事時に変化があれば、保護者様に報告する。また保護者様との情報共有を積極的に行う。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	率先してヒヤリハットは都度記載し、毎月の会議で情報共有し、傾向など分析の上、改善や再発防止に繋げている。		3ヶ月ごとに、傾向などを分析し、再度注意喚起を行う。改善策の効果についての再検証も行う。(安全管理委員会主導)